

○ 「読むこと」領域の「音読に関する指導事項」を指導する際の留意点は何か。

現行学習指導要領の「声に出しての読むことに関する指導事項」が、新学習指導要領では「音読に関する指導事項」に改められ、「声に出して読む」が「音読」という表記になり、また、第5・6学年に指導事項が明記されるとともに、平成10年度改訂で削除されていた「朗読」という言葉も復活した。(表1)

【表1】音読に関する指導事項の新旧比較表

	第1・2学年	第3・4学年	第5・6学年
(現行) 声に出しての 読むことに関 する指導事項	エ 語や文としてのまとまりや内容、響きなどについて考えながら声に出して読むこと。	カ 書かれている内容の中心や場面の様子がよく分かるように声に出して読むこと。	
(新) 音読に関する 指導事項	ア 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。	ア 内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読すること。	ア <u>自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読をすること。</u>

## 1 音読の意義

音読には、自分が理解しているかどうかを確かめたり、深めたりする働きと、他の児童が理解するのを助ける働きとがある。

自分のために音読する場合は、文字を確かめ、内容が理解できるか、どのように感じるかなどを、自分の声を自分で聞きながら把握していく。他の人のために音読する場合は、音声化することによって、お互いに理解し合っているかを確認し合うことになる。また、一人一人の理解や感想などを音読に反映させることもある。

## 2 音読指導における留意点

### (1) 低学年における留意点

- 低学年では、明瞭な発音で文章を読むこと、ひとまとまりの語や文として読むこと、言葉の響きやリズムなどに注意して読むことなどが重要となる。このような活動を確かなものとするためには、「A話すこと・聞くこと」(1)の「ウ姿勢や口形、声の大きさや速さなどに注意して、はっきりした発音で話すこと。」と関連付けて指導することが重要である。
- 指導事項イ～カとかかわらせて指導し、児童の実態に応じて繰り返し音読する機会を設ける。
- 自分の声を自分で聞きながら音読する習慣を付けたり、他の人に聞いてもらったりするなど、聞くということを意識できるように工夫する。
- 教師が読んだ後に児童が読んだり、グループで役割読みしたりするなどいろいろな方法を工夫する。

### (2) 中学年にける留意点

- 「内容の中心や場面の様子がよく分かるように」とは、一文一文などの表現だけでな

く、文章全体の内容や構成からその中心を把握して音読する工夫を求めたものである。中心を理解することによって、音読するときの軽重や速さなどを考えて音読の仕方を変えることができるようになる。特に、物語では、各場面を意識して、様子がよく分かるように音読する工夫が必要である。

- 「カ目的に応じて、いろいろな本や文章を選んで読むこと。」と関連付けて、本や文章の内容や表現の特徴に合わせて、音読の目的や方法を工夫させるようにする。
- 「A話すこと・聞くこと」(1)の「ウ相手を見たり、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意したりして話すこと。」とも関連付けて指導する。
- 黙読も活用し、文章の内容の理解を深めることが重要である。黙読については、文章の展開に即して事柄を関連付けたり、重要な箇所を見付けたり、必要に応じて速さを変えて読んだりするなどの指導を工夫する必要がある。

(3) 高学年における留意事項

- 音読，朗読の役割に応じた指導を工夫する。

	音 読	朗 読
役 割	文章に書かれていることを理解して音声化する。 書き手の意図を考え自分の思いや考えと合わせて音声化する。	読者として自分が思ったことや考えたことから対象としている文章の全体的なイメージを明確にし、そのことを相手に分かってもらうように伝えようとして音声化する。
重 点	文章の内容や表現をよく理解し伝えることに重点がある。	児童一人一人が自分なりに解釈したことや、感心や感動をしたことなどを、文章全体に対する思いや考えとしてまとめ、表現性を高めて伝えることに重点がある。
留 意 点	特に物語や詩では、書き手が語り手を設定したり、登場人物を設定したりしているので、その語り手やそれぞれの登場人物などの人物像も明確にし、どのように語りたのかを決める必要がある。その上で、今まで学習してきた、声の大きさ、声の質や速さ、間の取り方などに気を付けて音読させるようにする。	同じ文章を読んでも、一人一人の感じ方や思い、考えなどが違うことを大事にするとともに、どのように音声化すれば聞き手にもよく味わってもらえるのかなどを考えながら相互に朗読し合って楽しむことを重視する。

- 児童や学級の実態に応じて、音読や朗読の方法を考えたり、取り入れる場面を工夫したりするようにする。音読や朗読の発表会をしたり、更に表現性や創造性を高め、朗読劇や群読を行ったりするほか、身体的な表現なども交えた劇のような音読の活動なども考えられる。なお、このような発表会では、文章の内容や表現に戻って繰り返し読み、十分理解することに留意することが重要である。